

ライフサイエンス分野の Agilent 社が Viptela SD-WAN を導入

著者: Wyatt Carlson

ライフサイエンス分野の検査/計測機器メーカーである Agilent 社が、世界各国 120 拠点に Viptela のソフトウェア定義ドメインエリアネットワーク(SD-WAN)テクノロジーを実装して、帯域幅の向上、重要なサービスの可用性の向上、および最も効率的なトランスポートリンクへの WAN トラフィックステアリングを実現しました。

Agilent 社では、自社の WAN を再評価して、帯域幅の取り扱いを容易にし、それまで依存していた高価なグローバル MPLS を削減したいと考えていました。

そして同社は SD-WAN を知り、最初に 15 社を対象に検討し、3 つのベンダーのテクノロジーに絞り込んで、ラボでテストを実施しました。Agilent 社グローバルネットワークアーキテクト Pascal Heger 氏によれば、ラボでは同社のネットワークを模した小規模な環境を構築し、各ベンダーに SD-WAN テクノロジーを実装させました。

具体的に言うと、同社が関心を持っていたのは、Quality of Service(QoS)の取り扱い、トラフィックステアリング、フェールオーバー環境、ダイナミックルーティング環境などでした。Heger 氏によれば、Viptela 社は当時、有名ではありませんでしたが、性能において他の 2 つのベンダーよりも断然優れていました。

上記の特徴に加えて、Viptela 社は、コントローラベースのオーケストレーション、モニタリング機能、ハードウェアサポート、統合機能を提供することができました。例を挙げると、Agilent 社は Zscaler 社のセキュリティ機能を利用して URL フィルタリング、

帯域幅の制限、トラフィックステアリングポリシーなどを実現していますが、Viptela 社のテクノロジーはこれらの Zscaler 社のサービスに簡単に統合することができたのです。

Viptela の SD-WAN は 2016 年 1 月に Agilent 社に導入され、それ以来、数多くのメリットをもたらしています。モニタリング、統合セキュリティ、帯域幅とパフォーマンスの向上などのさまざまな機能を提供し、それらを MPLS と同じ価格で実現しています。

「しかし、SD-WAN への移行は、Agilent 側のコスト削減の取り組みとして実施されたわけではありません」と Heger 氏は話します。

「デバイスや、ネットワークを行き交うコンテンツが増加している状況の中、継続的な帯域幅需要についていくには、そのような状況に対応できる必要がありました。今では大容量の帯域幅を同じコストで利用できるようになり、会社の成長に伴う今後のニーズにも対応可能です」と語ります。

同社は現在、小規模な拠点にはインターネット接続のみを使用し、大規模な拠点には MPLS とインターネット回線を合わせて使用しています。「拠点で複数のインターネット回線を用意することにより、ネットワークの信頼性が向上します。回線の 1 つに障害が生じても、簡単に別回線にロールオーバーできるからです」と Heger 氏は述べています。

カリフォルニア州サンタクララに本社を置く同社は、2000 年に Hewlett Packard Enterprise (HPE) 社から独立して設立され、現在、世界 30 カ国に 12,000 名の従業員を擁しています。